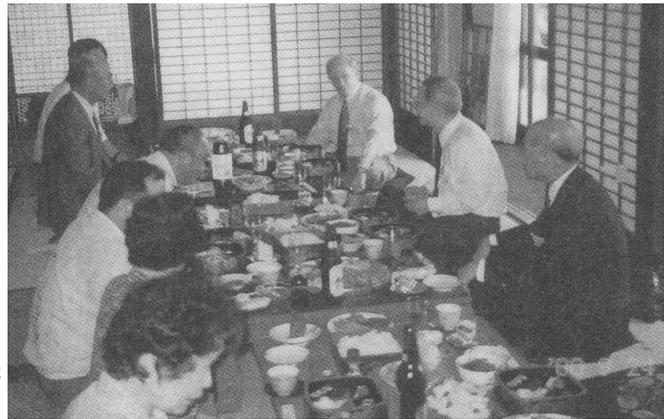


航走中の軽巡洋艦「北上」から発進実験中の「回天1型」（大入沖）昭和20年2月26日



勝山淳さんの生家でヘンリー・ロード氏（右奥）を囲んで



子供の日の日米児童交歓レクリエーション（呉市内） 昭和30年5月5日

多くの占領軍将兵は、敵国であった日本人をにくんで上陸してきた。声にはだせなかったけれども、身内を殺され家を焼かれた日本人も、かつての「鬼畜米英」をにくむ気持ちに変わりがなかった。しかしたがいに接触するにつれて、好意をいただく例がしばしばみられるようになる。もちろん、戦争の傷跡は、すべて簡単にいやされるものではなかったけれども。

ところで、どうして、世界の国々や人々は、「憎しみ」、「不満」、「ねたみ」、「欲望」、「善悪」などのこだわりを、戦争や争いによって解決しようとするのでしょうか？現在でも「戦争」や「紛争」や「テロ」が多発しています。それらの戦闘地域では悲惨な出来事が続き、悲しみが渴くことのない様子を、日々目の当たりにしてきているわけですから、新たな「憎しみ」、「不満」、「ねたみ」、「欲望」、「善悪」がおこり、新たな「戦争」、「紛争」、「テロ」へと激化し、飛び火し拡散していつているのです。それほど戦争は根深く、悲惨なものだと思います。過去の戦争もそうですし、現在の「戦争」、「紛争」、「テロ」もそうです。戦争によっては何も解決することはできません。「憎しみ」、「不満」、「ねたみ」、「欲望」、「善悪」を解決するにはお互いが話し合い、お互いを理解することにより、真の信頼関係をつくりあげることでは解決する方法はないのではないのでしょうか？世界の国々、世界の国々が「国」、「国民」の立場をこえて、それぞれの国、国民にこだわらず、お互いの真の信頼関係をきずくことが「世界平和」に結びついていくと思います。戦闘地域で過ごしたことのない自分だからいえる理想かもしれないけれど、一日も早くそうなって欲しいことを願わずにはいられません。2004年8月6日の広島『平和記念式典』に、イラクの方が参加されていましたね。「どうして、広島の人々は、原爆を投下した国を許すことができるのですか？それが知りたくて、ぼくは、今日、この式典に参列したのです。」と話されたことが、テレビをみていて私は、印象に残っています。重い言葉です。でも、時間をかけて、歩みよって欲しいと思いました。

また、「世界平和」を共有する集いの一つである広島平和記念式典では、毎年小学生二人による「平和の誓い」が行われていますね。世界各国から来られているたくさんの方々も、それぞれうなづきながら、聞いておられました。新たに世界平和を誓っておられるような表情をみていて、私も気持ちがひきしまりました。こうやって、広島、日本、そして世界各国の人々が国を越え、皆で「世界平和」を連帯し、集うことを、これからも皆で大切にしていきたいと思いました。

呉に住んでいるみんなは、「呉の子ども」である事と同時に、「広島の子ども」、「日本の子ども」、「世界の子ども」でもあるわけです。これからは、いろいろな国の子どもたちと交流する機会があれば、物怖じせず、積極的に交流し、親睦を図り、仲良くなって、お互いの信頼をきずき、お互いの問題を一緒に考えていく青年に育って欲しいと思いました。



天宝山慰霊碑(日支事変、太平洋戦争で戦死した人を悼み建立)へ、1996年8月15日 お参りする。

8章 おわりに

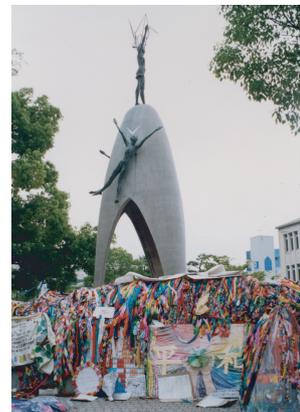
私は今まで、「戦争はしちゃあだめよね…」と互いに思いを共有できる子どもたちを育てたいと「平和と戦争」について話をしていたつもりでした。しかし、私は、「戦争のない今の日本」に甘んじて、「過去の戦争」をやはりどこか他人事のように捉えている自分に気がついたので。そこで、再び、戦争の傷跡や碑を訪ねたり、お年よりの方がたの貴重な戦争体験を伝え聞いたり、戦争体験した人びとが書かれている本を読んだりしました。しかし、戦争体験のない自分には理解できないこともありますし「平和と戦争」について、どのように子どもに伝えていったらいいのか悩んでいました。

その頃、自分の生まれ育った、宮原に住んでおられる大正末期に生まれ、青春時代に太平洋戦争を体験された武田先生(戦中派)に会うことができ、このことを相談すると、太平洋戦争の頃の呉のことや、太平洋戦争への思いなどを熱く語ってくださり、いろいろな貴重な本や資料を貸してくださいました。その1冊に1943年にフランスで発行された「エジョン・ド・ミヌイ真夜中版」の『詩人の栄光』という詩集に収められていたジャン・タルージュの短詩がありました。

死んだ人びとは、かえ還ってこない以上、
生き残った人びとは、何が判ればいい？

死んだ人びとはなげ慨くすべ術もない以上、
生き残った人びとは、誰の事、何を、慨いたらいい？

死んだ人びとは、もはや黙ってははいられぬ以上、
生き残った人びとは沈黙を守るべきなのか？



私は、この短詩が訴えているように、いろいろな方がたから、教えてもらった貴重な戦争体験とそれについて感じた思いを私なりに書こうと思ったのです。そして、『二度と戦争をしてはいけないよ！』『今の平和な日本にあぐらをかいてはいけないよ！』『過去の戦争に無感覚で、平和と戦争に無自覚でいるのはだめだよ！』

『現在の世界でおきているテロや戦争を知らないままでいると怖いよ！』と思いを共有できるように「平和と戦争」について、子どもたちに話をしていくだけではなく、できるだけ多くの若いあなたたちに共有して欲しいと願い、筆をとりました。一人ひとりが、いろいろな感性で、何かを感じとってくれ、これからの「平和」を創造する指標となってくれたら…と願っています。

最後になりましたが、「歴史」の苦手な私に、いろいろな貴重な資料を貸して下さり、暖かくご指導、ご助言してくださいました、たくさんのおじいちゃんやおばあちゃん方に、感謝とお礼のことばを述べ、筆をおきます。



最後に、武田先生が大切にされている「新聞の切り抜き」を紹介します。この一枚の写真から、「平和」を願う思いが私にも伝わってきます。

少年が直立不動の姿勢で立っている、この一枚の写真を、みんなにも、しっかりと見すえてもらいたいと思います。焼き場に立つ少年から、あなたは何を感じ、何を思うのでしょうか…。そして、今からの時間をどのように生きていくのでしょうか？

この新聞に書かれていたことは、次のような内容でした。これからのみんなの指標となることを願って、紹介し私も筆をおきます。

この写真のなかに、20世紀のすべてが、世紀を超えて続く人間というものの、哀しさと、崇高さが表れている。原爆を投下され、戦争が終わった直後の長崎。大きな穴を掘っただけの火葬場で、いくつもの遺体が炎をあげて燃えていた。そこに少年が現れて穴のへりに立った。背負っているのは死んだ弟である。作業をしていた男達がひもを解いて小さな遺体を受け取ると炎の中に置いた。燃え上がる弟を見つめていた少年はやがて、黙って立ち去っていった。ためらいながらシャッターを押したアメリカ人カメラマンは少年が歯をくいしばっていた唇の端に血がにじんでいたのを見た。もしも、少年が私だったらと想像してみてもはどうだろうか？ 広島・長崎ではなく他の都市が原爆投下地に選ばれて



1945 長崎

焼き場に立つ少年。撮影した米従軍カメラマン、ジョー・オダネルは「背筋が寒くなるような光景だった。この少年は今、どうしているのだろうか」と当時を語る（1945年、長崎、©ジョー・オダネル）

いたら、この少年ではなくほかの、例えば私が火葬場のへりに立つことになったかもしれない。

20世紀の目撃者である多くの写真は、それを見る人びとが、想像力という、人間の最もすばらしい能力を十分に働かせたときに、はじめて歴史としてよみがえるのだから……。

— 呉に 生きている 子どもたちに —

作詞 今朝丸 千里
作曲 二本松はじめ

1. 九つの嶺と 無数の星

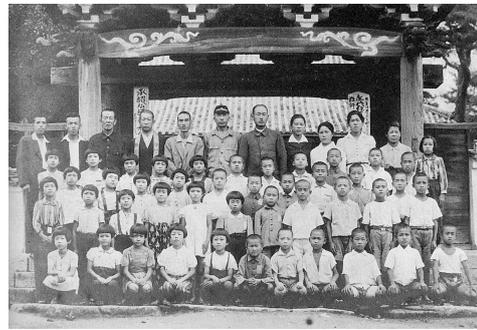
軍都と呼ばれた この呉の町
あの日のことは わすれはしない
火の町うつした 赤い月を
立ちすくむ弟の 汗ばんだ手を



空襲で焼けた時計（12時半を示す）

2. ホタル飛び交う 遠い山里

学童疎開の 夜の静けさ
あの日のことは わすれはしない
戦争はいつ終わるのかしらと
手を合わせて 祈る 呉の空を



五番町国民学校集団疎開（東高屋村養国寺）昭和20年（佐々木秀雄氏提供）

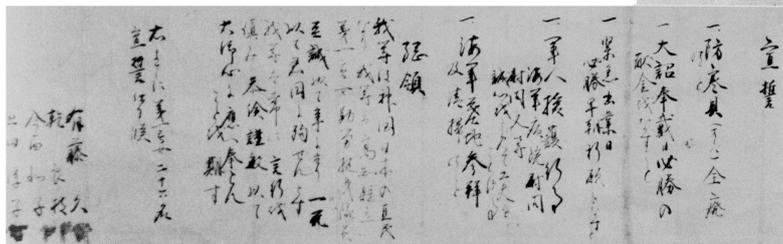
3. 空の青さと 緑がつつむ

海を見下ろす 挺身隊の墓
あの日のことは わすれはしない
爆弾くぐり 友と逃げまどった
あの火の丘を 泣き叫ぶ声を



撫子隊の宣誓・血判 昭和20年1月1日
（松浦ウタ子氏提供）

昭和19年3月27日に、高知県第1高女を卒業した直後に呉工廠に入廠した26人は電気部に配属されている。撫子隊とよばれた彼女たちは、左記のような「宣誓」をし全員が血判をして決死の覚悟で勤労作業をしたという。



「宣誓」昭和20年1月1日（三浦淳氏所蔵（正藤繁氏提供）昭和62年撮影）

4. 海の青さと 打ち寄せる波
遊歩道 アレイからすこじま
あの日のことは わすれはしない
片道だけの 燃料をつんで
若い命が 旅だった日の海を



魚雷をあげおろしたクレーン

5. 山肌に残る 砲台のあと
焼けた煉瓦 屋根のない建物
気づく人もなく 訪ねる人もない
わすれられない あの日の呉を
語りついで あの日の呉を
伝えていこう わたしたちの願い



屋根のない呉海軍工廠の残物

Handwritten musical score for the lyrics of item 5. The score is written on five staves in treble clef with a key signature of one flat (Bb) and a common time signature (C). The lyrics are written below the notes.

この日のみねと すすりのほし ぐん
とよばれたこの くれのまち
あの日のことは わすれはしない
ひのまつくした あかいつきを
たたくむ おとこの あせんだてを

参考文献（本書で引用した図書・資料）

- 「別冊 1 億人の昭和史 特別攻撃隊 日本の戦史別巻④」
毎日新聞社 昭和54年(1979年)9月1日発行
- 「散華の世代から」
吉田 満 著 株式会社講談社 昭和56年(1981年)3月27日発行
- 「戦中派の死生観」
吉田 満 著 文藝春秋 昭和56年(1981年)8月10日第13刷発行
- 「きけ、わだつみのこえ 第一集 -日本戦没学生の手紙-」
光学社、日本戦没学生 昭和63年(1988年)5月10日 78印刷発行
- 「きけ、わだつみのこえ 第二集 -日本戦没学生の手記-」
岩波書店 平成3年(1991年)8月8日印刷発行
- 「渡辺直己の生涯と芸術」
米田利昭 著 株式会社沖積舎 平成2年(1990年)9月11日発行
- 「渡辺直己全集」
株式会社創樹社 平成6年(1994年)10月25日発行
- 「私がいま伝えたいこと -戦争体験と平和への願い-」
婦人之友編集部 平成8年(1996年)4月1日発行
- 「新世紀に語り継ぐ戦争 聞いてください私たちの十六歳」
兄玉辰春 編著 株式会社汐文社 平成13年(2001年)8月1日初版第1刷発行
- 「聞いてください私たちの十六歳 新世紀に語り継ぐ戦争 第二集」
兄玉辰春 編著 株式会社汐文社 平成14年(2002年)8月5日初版第1刷発行
- 「人間魚雷『回天』一特攻隊員の肖像」
兄玉辰春 編著 株式会社高文研 平成15年(2003年)11月20日第1刷発行
- 「呉の戦災」呉戦災を記録する会
呉市戦災展実行委員会編 平成7年(1995年)6月22日発行
- 「呉・戦災と復興」
呉市史編さん室編集 呉市役所発行 平成9年(1997年)3月25日発行
- 「呉の歩み」
呉市史編さん室編集 呉市発行 平成元年(1989年)3月15日発行
- 「呉の歩み」
呉市史編さん室編集 呉市発行 平成14年(2002年)3月25日発行
- 「呉市制100周年記念 体験手記集『呉を語る』」
呉市企画部呉市史編さん室編集 平成15年(2003年)1月31日発行
- 「呉・ゆかりの文化人」
呉市史編さん室編集 呉ロータリークラブ発行 平成7年(1995年)6月発行
- 「警固屋の歴史」
警固屋歴史研究会 平成15年(2003年)5月発行

戦争を知らない 若いあなたたちへ
-戦争を体験したおじいちゃん おばあちゃんたちから学こと-

著者 今朝丸 千里

発行 平成17年(2005年)2月28日

印刷 ふ る ど 印 刷

ヨーソロ 出航だ!

作詞・作曲 二本松はじめ

ひろしまをながれる かーわもながさきをながれる かーわも お
きなむをながれるかーわも とうきながれる かーわも
いつかはきとであうだろう おおきなうーみで であうだろう
ぼくらのいまだでかーげよう おおきなうーみへ こきだそう
ヨーソロヨーソロ なかまたち ヨーソロヨーソロ しつこうだ

1. 広島を流れる川も 長崎を流れる川も
沖縄を流れる川も 東京(呉)を流れる川も
いつかはきっと出会うだろう 大きな海で出会うだろう
ぼくらのいまだ出かけよう 大きな海へ漕ぎ出そう
ヨーソロ ヨーソロ 仲間たち ヨーソロ ヨーソロ 出航だ!
2. 日本を流れる川も アジアを流れる川も
中東を流れる川も アフリカを流れる川も
いつかはきっと出会うだろう 平和な海で出会うだろう
ぼくらのいまだ出かけよう 平和な海へ漕ぎ出そう
ヨーソロ ヨーソロ 仲間たち ヨーソロ ヨーソロ 出航だ!
3. ヨーロッパを流れる川も アメリカを流れる川も
北極南極オーストラリア 地球を流れる川は
いつかはきっと出会うだろう いのちの海で出会うだろう
ぼくらのいまだ出かけよう いのちの海へ漕ぎ出そう
ヨーソロ ヨーソロ 仲間たち ヨーソロ ヨーソロ 出航だ!